

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】ブラインド方式、緊急地震速報の活用と放送の停止		
学校名	県立南陽工業高等学校		
日時	平成25年12月16日(月) 10:40~12:10		
場所	グラウンド・裏山	参加者	生徒・教職員

1 訓練のねらい

いままで行っていなかったより現実味のある訓練を実施して、生徒・教職員の防災意識を高めるとともに、本校で実際に発生し得る災害の想定に基づいた訓練を行うことにより、防災対応能力の向上を図る。

2 訓練の概要

(1) 平成25年度避難訓練実施計画 (全3回実施予定)

実施日	時間	想定	内容
4月9日(火)	11:35 ~ 12:25	事務室より火災発生 消防署来校、消火訓練指導 雨天時：体育館	火災発生時の避難経路確認 人員確認・報告の徹底
12月16日(月)	10:40 ~ 12:10 時間は非公表	総合防災訓練 地震発生(震度7想定) 津波発生(高さ5mで遡上を想定) 雨天時：体育館	訓練用緊急地震速報を活用 地震発生時の避難方法確認 二次避難方法の確認 防災の理解を深める教育活動
2月7日(金)	10:00 ~ 10:30	地震発生後家庭科1階食物実習室 より火災発生 雨天時：体育館	避難における安全行動の徹底 伝達・避難の徹底 防災の理解を深める教育活動

(2) 12月 総合防災訓練の実実施計画

1 訓練実施日時 12月16日(月) 10:40 ~ 12:10 (時間は非公表で実施)

2 職員朝礼での伝達

- ① 避難集合場所(グラウンド、雨天時体育館)の確認、避難(一次、二次)経路の確認
 - ② HR副委員長はクラスの整列に参加せず、ただちに本部前に集合
 - ③ 本部への連絡は、HR委員長
 - ④ 上履きのまま避難。終了後はよく泥を落として戻る。
- ※ ①~④を学級担任がSHRで十分に生徒へ事前指導する。

3 各分掌へのお願い

- ① 緊急地震速報、地震音源準備：情報管理係(2名)
- ② 集合時の整列指導：保健体育科(グラウンド、雨天時は体育館)
- ③ 放送設備準備：放送係(1名)



机下に避難する生徒

4 準備品 … 本部旗、ハンドマイク、ストップウォッチ、時間記録用紙

5 SHR時指導：(HR担任)

- ① 本日の訓練は、指定時間なしの授業時間帯に発生する地震・津波の訓練であることを予告・認識させる。
- ② 教室、実習室、グラウンドなど様々な場所での避難を想定した訓練であること。内容についても指導。
- ③ 緊急地震速報以外は訓練中に放送での指示がないこと。授業担当者の指示に従うこと。
- ④ 避難の際には、安全かつ迅速に行動することを心がける。

6 訓練

(1) 一次避難訓練

① 緊急地震速報の発令（情報管理係）

「電子キュー：緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。」（2回復唱）
直ちに全員、机の下等に身を隠す。

- ・（10秒後） - - - 「地震の効果音（30秒）」 - - -
この間、教職員も教卓等に身を隠しながら観察・指導

② 地震の効果音が鳴りやんだら

生徒の安全確認 「怪我をした生徒は居ないか？」

「生徒はそのまま待機しなさい。」

授業担当者は周囲の安全を確認して、廊下に出て避難指示を仰ぐ。

教務主任 「全員避難。3年から運動場に避難。他は廊下に整列して待機。」

（拡声器を使用） 「2年避難。」続いて「1年避難。」

上履きのまま、避難経路に従って運動場に避難

- ・地震の効果音が鳴りやんだ時点で、ストップウォッチ スタート

③ 本部への報告（本部旗のある場所）

HR委員長が報告にくる。→ 報告後すぐに帰す。

「〇〇科□年在籍△名。欠席▲名。現員▽名。全員避難確認しました。」

HR副委員長は本部要員として集合。

(2) 二次避難訓練（津波想定） 避難確認後

「ただいま、津波（大津波）警報が発令されました。」

「直ちに運動場から山に向けて、二次避難を開始します。」

「クラス毎に2列縦隊を組んで、3年C科から順番に出発します。」

正担任を先頭、副担任を最後尾に移動開始。

(3) 体育館での防災講話・講評等（放送設備使用）

- ・諸注意：本校の防災対策（10分）

- ・講評：校長

- ・伝達：「終了後はよく上履きの泥を落として戻る。」

《生徒防御》



《生徒待機》



《生徒避難》



《生徒確認》



一次避難集合隊形

7 役割分担

本部	校長、教頭、事務長、各科主任
地震速報	教務情報管理係
整列係	保健体育科主任
進行係	総務部防災係
放送係	特別活動部視聴覚係
計時係	機械システム科主任
記録係	応用化学科主任
本部旗掲示係	電気科主任



二次避難行進中

3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 今回、地震災害に対する臨場感を出すために地震の効果音を使用したが、生徒、教職員ともに今までよりも実際に地震が起きた状況を想定しながら緊張感をもって訓練に臨めたという感想が多く、これまでより大きな成果があった。

- ◇ 大津波を想定した二次避難も取り入れて、本校よりも高い山側への避難を行う訓練も実施した。災害発生時には、より安全を確保するための避難行動をとることの重要性を認識させることができた。

【課題】

- ◆ 本校は、体育館を除いて校内及び周辺が土砂災害の指定区域であり、地震により、土砂災害が発生した場合の避難場所が体育館のみとなるため、最悪の事態の場合には体育館に全校生徒・教職員が孤立する想定も視野に入れて、平素から対策を考慮しておく必要がある。この問題については、周南市の避難場所の指定も受けており、併せて今後の課題としたい。

- ◆ 現時点では、校舎を地震及び津波に対して安全な避難場所と想定していないが、耐震性の高い新校舎が建築された後の避難場所については、あらためて専門家の指導のもとに検討する必要がある。